

# 研修参加報告書

平成30年 1月29日

会 派 名 江政クラブ  
会派代表者 河合 正猛

(参加者：伊藤 吉弘、幅 章郎、藤岡 和俊 )  
研修参加の結果について、次のとおり報告します。

①

年 月 日	平成30年1月24日（水曜日）
研修時間	13:00～17:00
研修場所	犬山国際観光センター「フロイデ」
研修内容	地方議会研修会 地方創生時代の政策と議会のあり方を学ぶ in 犬山市 【基調講演】 「地域から日本を変える」 講師：北川正恭氏（早稲田大学名誉教授） 【講演】 「犬山のまちづくり」 講師：山田拓郎氏（犬山市長） 【議会先進事例報告】 「前例より前進、議会機能向上」 講師：ビアンキ・アンソニー氏（犬山市議会議長） 【パネルディスカッション】 北川正恭氏（早稲田大学名誉教授） ビアンキ・アンソニー氏（犬山市議会議長） 目黒章三郎氏（会津若松市議会議長） 三木雪美氏（瀬戸市議会議長） 川上文浩氏（可児市議会議長）

# 研修参加報告書

①

年月日	平成30年1月24日（水曜日）
研修時間	13:00～17:00
研修場所	犬山国際観光センター「フロイデ」
研修内容	<p>地方議会研修会 地方創生時代の政策と議会のあり方を学ぶ in 犬山市</p> <p>【基調講演】 「地域から日本を変える」 講師：北川正恭氏（早稲田大学名誉教授）</p> <p>【講演】 「犬山のまちづくり」 講師：山田拓郎氏（犬山市長）</p> <p>【議会先進事例報告】 「前例より前進、議会機能向上」 講師：ビアンキ・アンソニー氏（犬山市議会議長）</p> <p>【パネルディスカッション】 北川正恭氏（早稲田大学名誉教授） ビアンキ・アンソニー氏（犬山市議会議長） 目黒章三郎氏（会津若松市議会議長） 三木雪美氏（瀬戸市議会議長） 川上文浩氏（可児市議会議長）</p>
■目的	<p>地方議会研修会の研修し、また、参加の他の市町村議員の方々と交流を深め、情報交換をし、今後の江南市議会のあり方についての参考にしていきたい。</p>

## ■内容

### 【基調講演】

「地域から日本を変える」

講師：北川正恭氏（早稲田大学名誉教授）

地域から日本を変えるというタイトルになっているが、まず、議会が地域を変える必要がある。地方議会が地域を変え、地域が日本を変えていくことが大切である。

### 【講演】

「ピンチをチャンスに変えた犬山のまちづくり」

講師：山田拓郎氏（犬山市長）

ピンチはチャンスになる。しかし、チャンスをつかむことが必要。

本町通線・新町線の道路拡張工事を辞め、無電柱化（8億）、どんでん館やしみんていなどの拠点整備（25～30億）、道路の美装化、景観助成を行った結果、犬山城登閣者数が最低の平成16年度（約18万）から平成29年度は約57万までV字回復した。最近では行列ができる店舗目当ての観光客も増え、ついでに犬山城を観光するという相乗効果もでてきている。課題は城下町での火災や駐車場不足、景観対策である。景観阻害建築物である体育館を移動し、福社会館も平成32年度に機能停止し、2階建てにする予定である。

犬山城周辺だけでなく、木曽川を利用したり、国道41号線、市街化区域低未利用地や里山を活かしたり、学びと活躍の場としていきたい。また、民による活性化も大切にしていきたい。

### 【議会先進事例報告】

「前例より前進、議会機能向上」

講師：ビアンキ・アンソニー氏（犬山市議会議長）

議会の大切な役割として、行政の監視があるが、それだけだと議会不要論が出てくる。議員が執行部へ条例を作れと提案するが、それなら議会で作ればよい。

基本理念は「市民の役に立つこと」、市民の役に立たない改革は意味がない。改善を目指すとき、前例に従うなら、今までと同じ結果しか出ないに決まっている。「前例より前進」である。条例などを作るのは議員の意識向上につながれば良いが、それらがあってもなくても議員の権限は変わらない。持っている権限を出し尽くす機能向上が必要である。

そのためには、「議員間討議」「議会の政策立案及び政策提言の力」「市民参加」の3つが重要である。

犬山市議会も、議会基本条例に「議員間討議」という言葉が10回ほど出てくるが、それをやっていなかった。平成23年12月定例会から、一般質問や本会議の議案質疑について、議員が討議を行うための全員協議会を開始した。議案質疑の翌日を休会日とし、議員間討議を行う日とした。

議員間討議を導入した結果、「当初予算を修正可決し、不要な事業を無くした」「議員提出議案で条例を改正した」「意見書案や決議案を可決し、国・県・市に対し議会の考えを伝えた」「付帯決議で、市に対し議会の考えを伝えた」ことが実現した。

また、議員間討議において常任委員会の委員のまとめた意見を、委員長報告を通じ訴えた。結果、コミュニティバスが2台→5台へ増え、小牧市や大口町へも乗り入れることとなった。

民主主義の一番の敵は「無関心」であり、市民の参加が必要。「市民と語る会」「親子議場見学会」「女性議会」「議長オープンドアポリシー」「市民フリースピーチ制度」など、市民の直接参加により、市政に関心を高めさせ、議会や議場に親しめるようにし、より市政に市民の意見を反映させる議会へとしていきたい。

#### 【パネルディスカッション】

パネリスト；北川正恭氏（早稲田大学名誉教授）、ビアンキ・アンソニー氏（犬山市議会議長）、目黒章三郎氏（会津若松市議会議長）、三木雪美氏（瀬戸市議会議長）  
司会；川上文浩氏（可児市議会議長）

○アメリカでは、市役所の場所を聞くと、議会を紹介される。市民が相談をする場が議会だからである。議会改革はなかなか進まないが、初めの一步を歩みだすことが重要。

○議長選挙の時に執行部（議案を説明するためにいる）はいらない。議会側が提案の時にもいらないので、暫時休憩して、執行部は退席している。部長は市役所での高給取りなので、議会ではばらず、仕事をしてもらおう。

○議長は立候補制とし、所信表明演説は議場で行う。議事録に残る。

○先例はやめた方がよい。議員になった時の、素朴な疑問を出すところから始めるのもよい。

○議会の役割として、①行政への監視機能、②政策立案機能があるが、③民意吸収機能がその基本となるものである。これを、議員個々の働きだけでなく、議会として塊意識をもってやることが重要である。

○会津若松市では、民意吸収の手段として、議会制度検討委員会に市民委員を2名公募で参加してもらっている。さらに、議会広報のモニター制度（50～60名）を、長野県飯綱町を参考に制度化しようと取り組み始めた。

○可児市では、高校生との取り組みを行っており、先の選挙でも投票率が高かった。投票率を高くしたのは議会だと胸を張って言える。次は教育委員会が動く。

○一番生産性の低いのは議場（年間30日ぐらいしか使っていない）であり、その議員が市職員へ「無駄遣いをするな」とは言えない。市民の税金で作った議場を市民の方に利用してもらおうことを考える必要がある。

#### ■所感

非常に熱い話を聞くことができ、元気になりました。遠くは北海道や広島からの100名を超える議員の参加があり、議会改革をしていこうという議員との意見交換も大変有意義であった。江南市でも「議員間討議」を実施し、さらなる「民意吸収」のための市民参加を考えていく必要があると大いに感じた。まずはできるところから取り組んでいきたい。